

欧州景気概況(2023年1月)

2023年1月10日

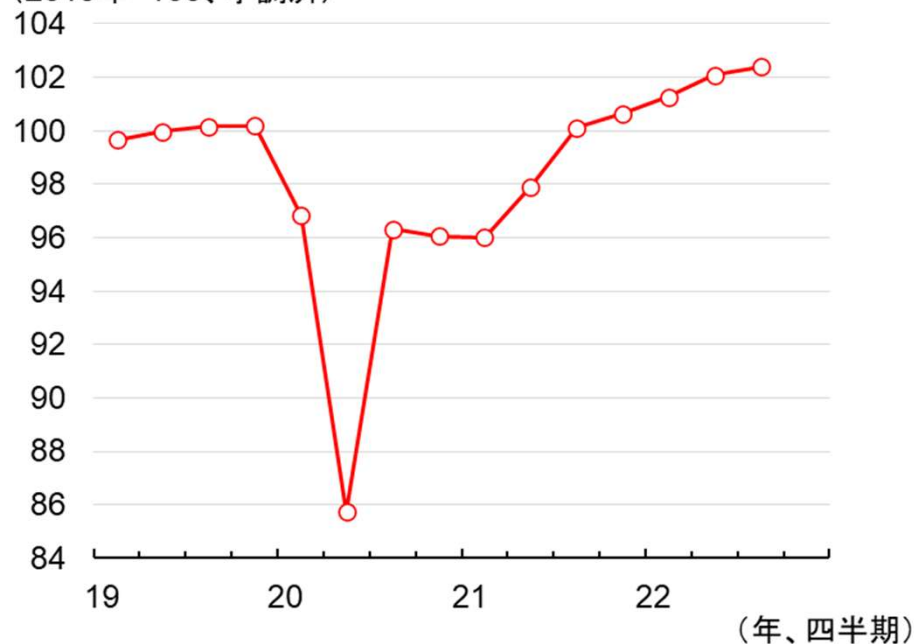
調査部 副主任研究員 土田陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は足踏みしている

ユーロ圏の2022年7-9月期の実質GDP(確報値)は前期比+0.3%と、同年4-6月(同+0.8%)から増勢が鈍化した。一方で、景気の方角を示す景況感指数は、最新12月が95.8と2ヶ月連続で上昇しており、景気が底打ちした可能性を物語る。

実質GDP

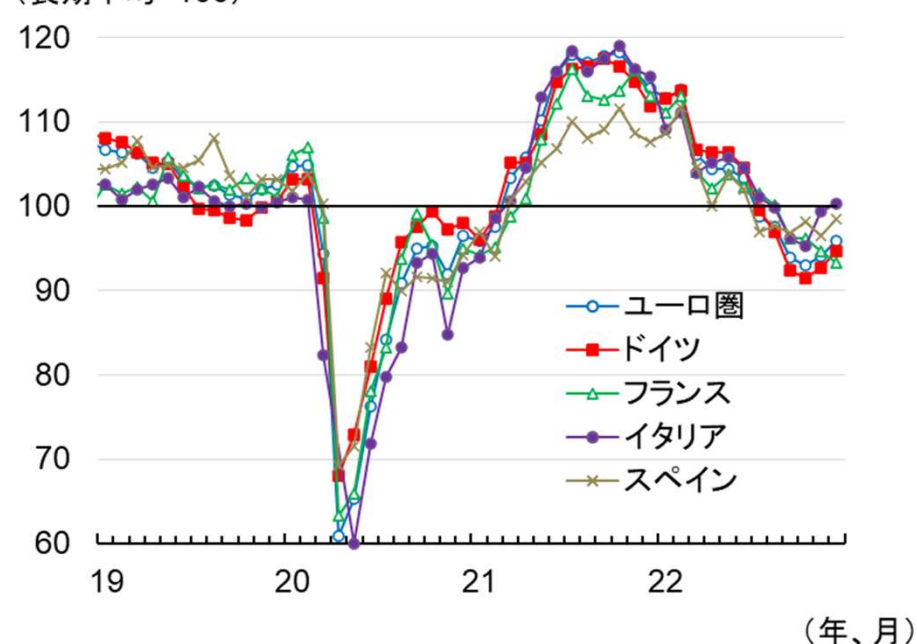
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は増加

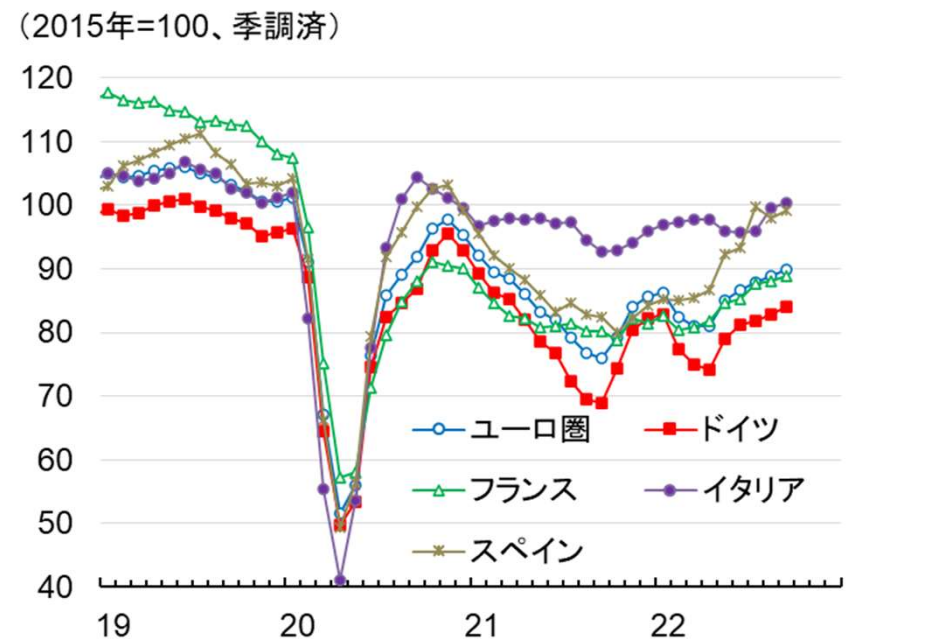
ユーロ圏の2022年10月の鉱工業生産は前月比-2.0%と減少に転じたが、均した動きは上向き。資本財と消費財が減少に転じ、生産全体の重荷となった。主要国の自動車生産台数も緩やかに持ち直している。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット (年、月)

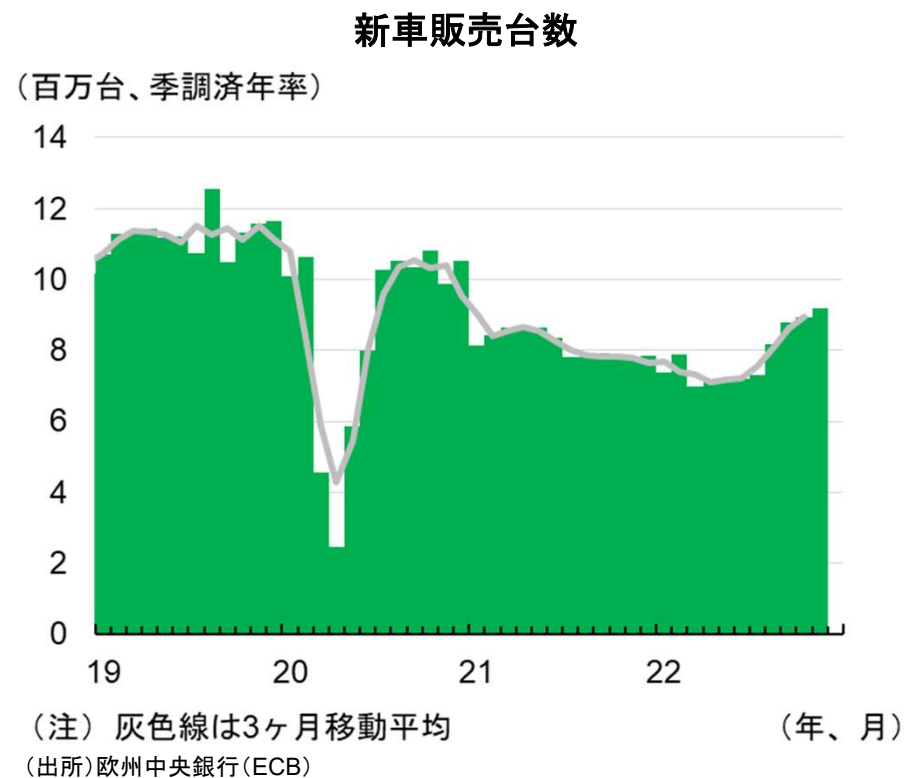
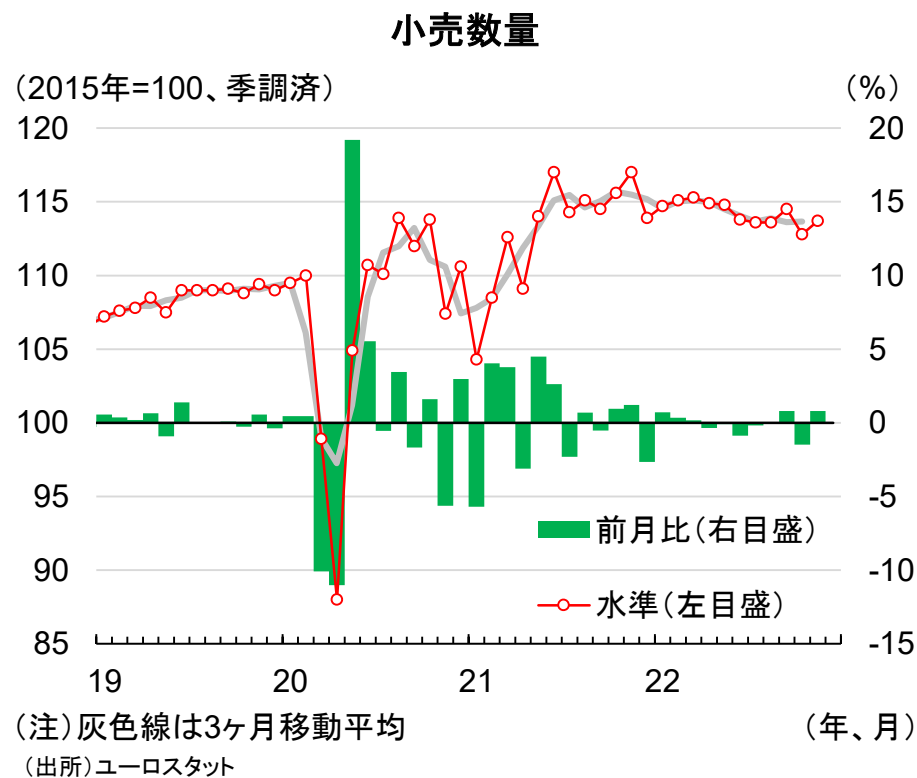
自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット (年、月)

ユーロ圏景気概況③ 消費は底入れ

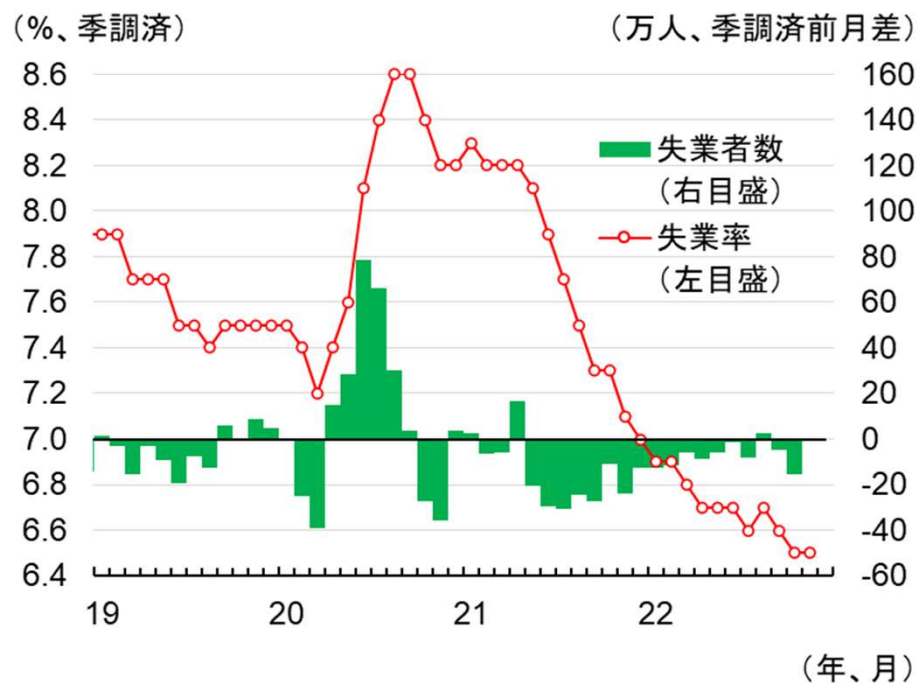
ユーロ圏の2022年11月の小売数量は前月比+0.8%と増加に転じ、均した動きも底入れした。また同月の新車販売台数は前月比+2.9%の年率918万台と堅調、均した動きも上向き。半導体などの供給制約の緩和が新車登録台数の増加につながった模様。



ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善が一服

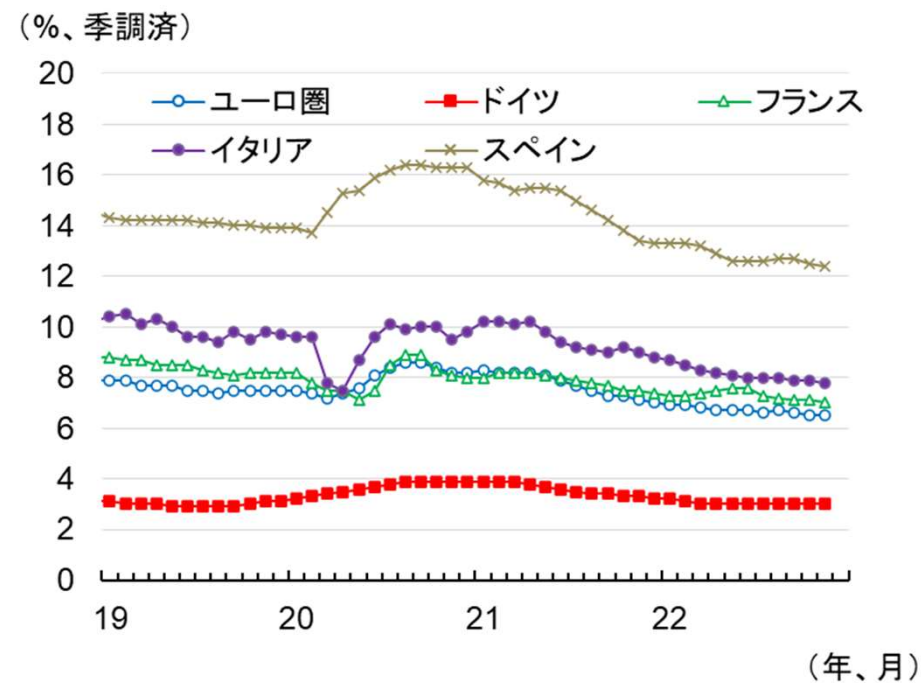
ユーロ圏の2022年11月の雇用統計では、失業率が6.5%と前月から横ばい、失業者数も前月比0.2万人減と、雇用の改善が一服した。主要国別に失業率を見ると、フランスとイタリア、スペインで失業率の低下が続いた一方、ドイツは横ばいだった。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

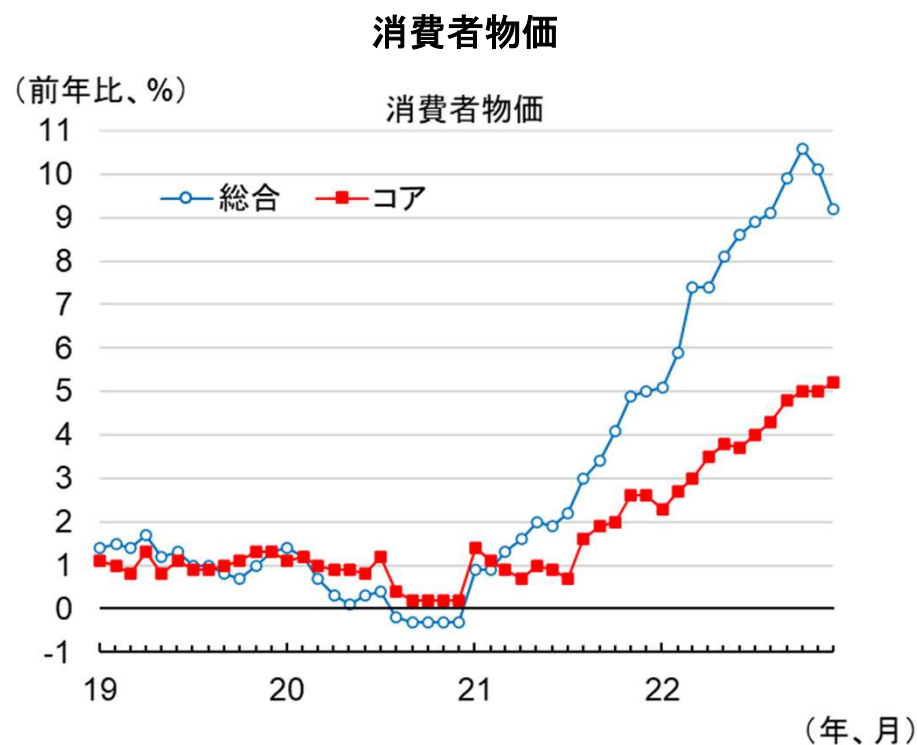
主要国別失業率



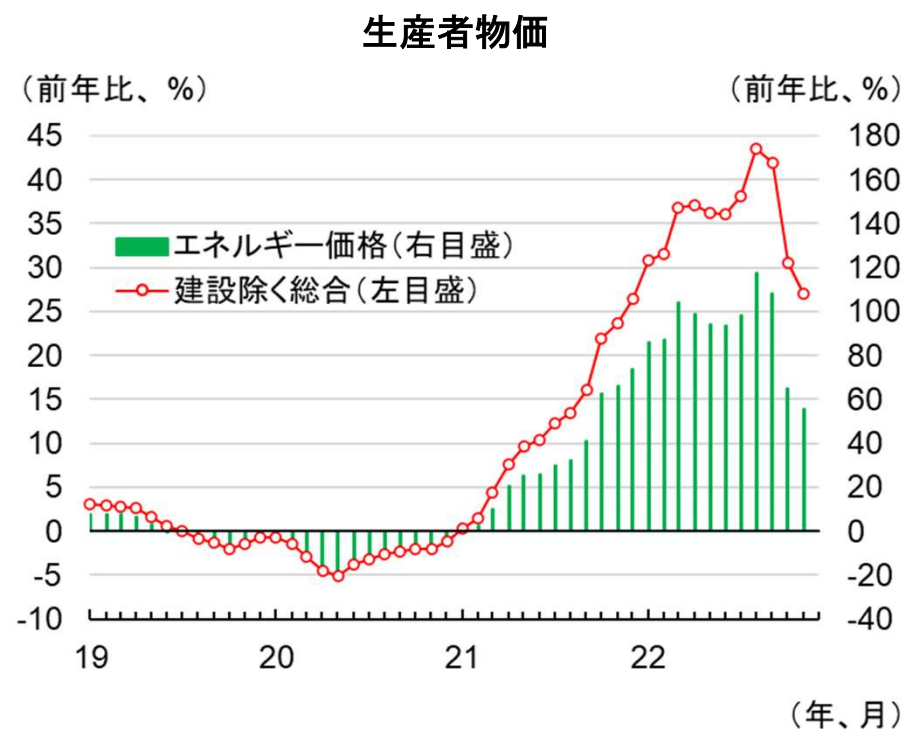
(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレ加速がピークアウト

ユーロ圏の2022年12月の消費者物価(速報値)は前年比+9.2%と、2ヶ月連続で伸びが鈍化した。また先行指標である生産者物価(建設除く総合)も11月時点で前年比+27.1%と、3ヶ月連続で上昇が減速した。うちエネルギー価格も同+55.7%と、3ヶ月連続で伸びが鈍化した。



(出所)ユーロスタット

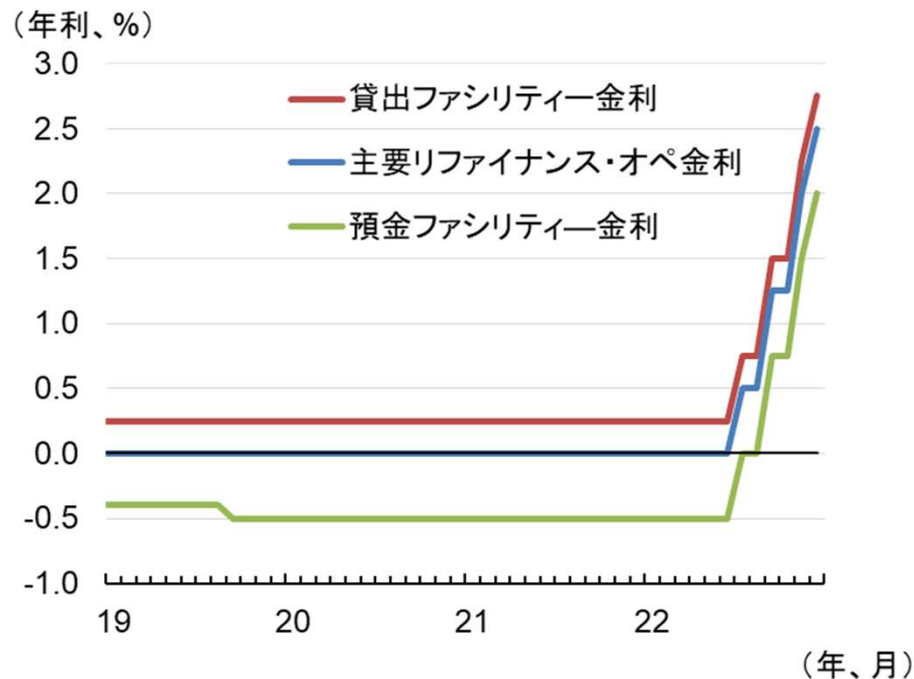


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは12月理事会で追加利上げ

欧州中央銀行(ECB)は2022年12月15日に定例の政策理事会を開催、3種類ある政策金利をそれぞれ0.5%引き上げた。またECBは資産購入プログラム(APP)の再投資終了に関する原則を公表し、2023年3月から再投資を停止すると発表。2月2日に予定されている2023年最初の理事会で、再投資終了に関する詳細が発表される模様。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

12月理事会での決定内容の概要

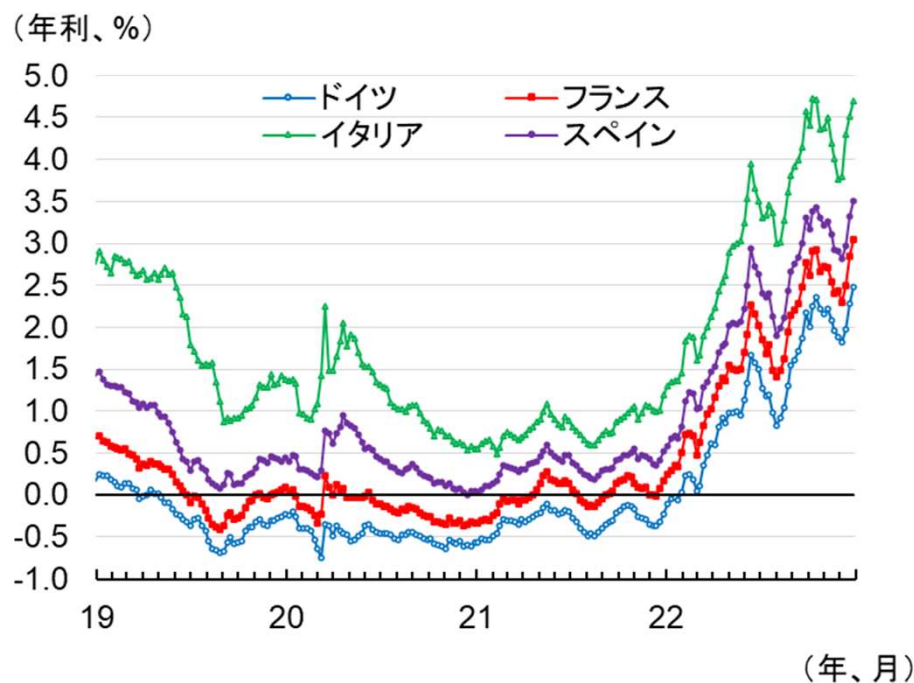
主な決定事項	内容
政策金利	<ul style="list-style-type: none"> ■各政策金利を0.5%ずつ引き上げ ・貸出ファシリティ金利 2.25%→2.75% ・主要リファイナンス・オペ金利 2.00%→2.50% ・預金ファシリティ金利 1.50%→2.00%
資産購入の再投資政策	<ul style="list-style-type: none"> ■資産購入プログラム(APP) ・2023年3月より再投資の一部を停止 ・3月から6月まで月150億ユーロのピッチで保有資産を削減 ■パンデミック緊急購入プログラム(PEPP) ・再投資は2024年末で終了 ・各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う
市場分断防止策(TPI)	<ul style="list-style-type: none"> ■TPIの適用条件 ・EUが定める財政ルールの順守 ・健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など) ■TPIの具体的な手段 ・流通市場での国債購入、金額は無制限 ・購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年 ・状況が改善すれば終了 ・経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず

(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

2022年12月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇した。米国の金利上昇に加えて、ECBによる追加利上げがユーロ圏主要国の金利を押し上げた。他方で、12月のユーロ圏の株価は下落した。景気減速懸念や金利の上昇が株価を下押しした。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX

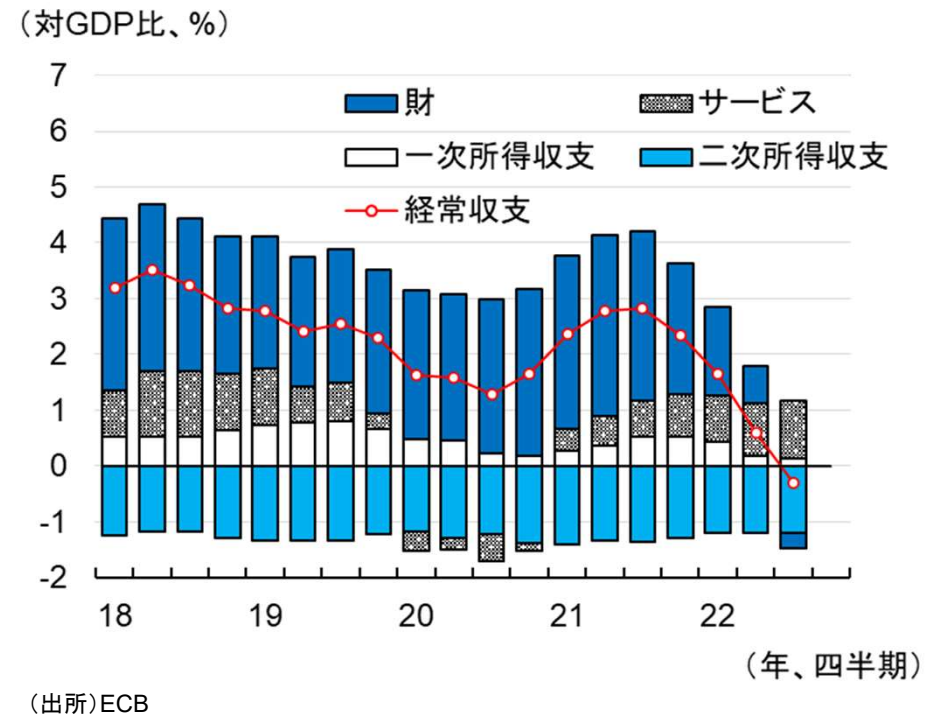
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで上昇、対円で下落

2022年12月のユーロ相場は対ドルで上昇、対円で下落。対ドルでは、世界的なドル高が一服したことでユーロ高が進んだ。対円では、日銀による予想外の金融政策の修正を受けてユーロ安が進んだ。国際収支を確認すると、財収支が赤字に転じたことで経常収支が赤字に転じており、実需面からのユーロ買い圧力が弱まっている。

ユーロ相場



国際収支

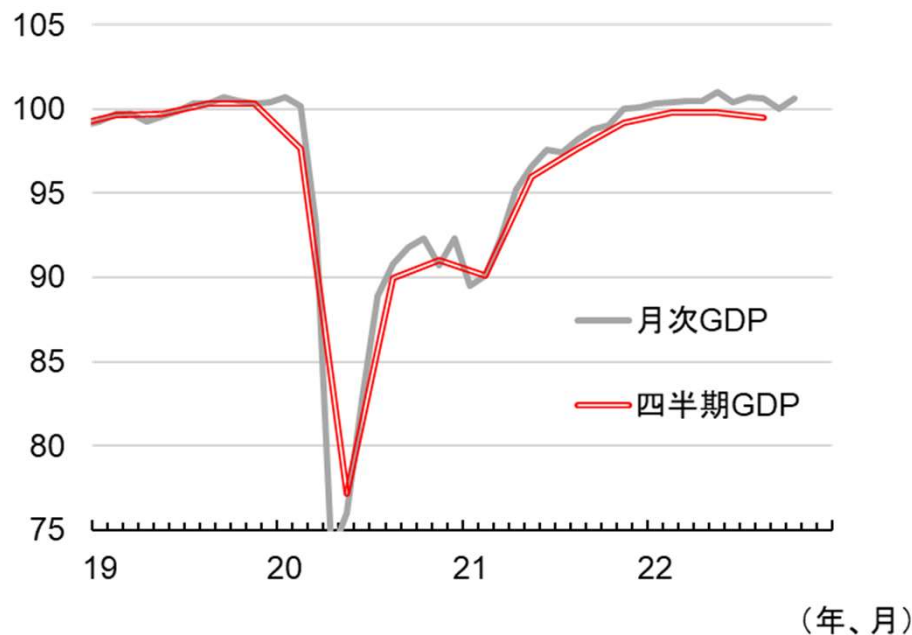


英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の2022年7-9月期の実質GDP(確報値)は前期比▲0.3%と、2021年第1四半期以来の減少に転じた。主要な需要項目の動きを確認すると、個人消費と設備投資が減少して景気の重荷となった。反面で、輸出が堅調に増加して景気を下支えた。一方、10月の月次実質GDPは前月比+0.6%と、3ヶ月ぶりに増加した。

実質GDP

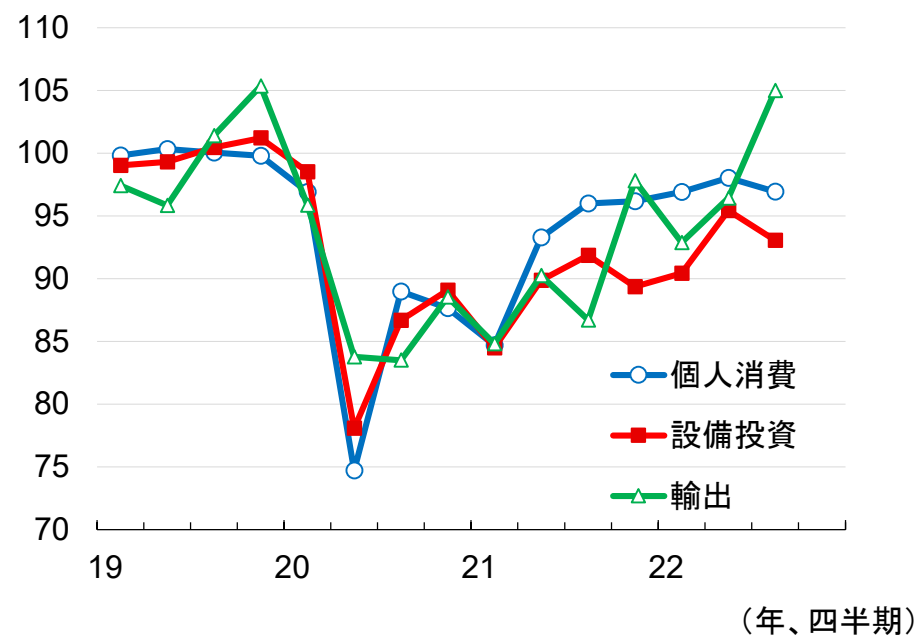
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2019年=100、季調済)



(出所)ONS

英国景気概況② 生産は悪化

英国の2022年10月の鉱工業生産は前月比横ばいにとどまり、均した動きは下向き。一方で、同月の実質輸出は同▲2.8%と2ヶ月連続で減少したが、均した動きは上向き。また同月のサービス生産は前月比+0.6%と増加に転じたが、均した動きは横ばい。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況③ 消費は悪化

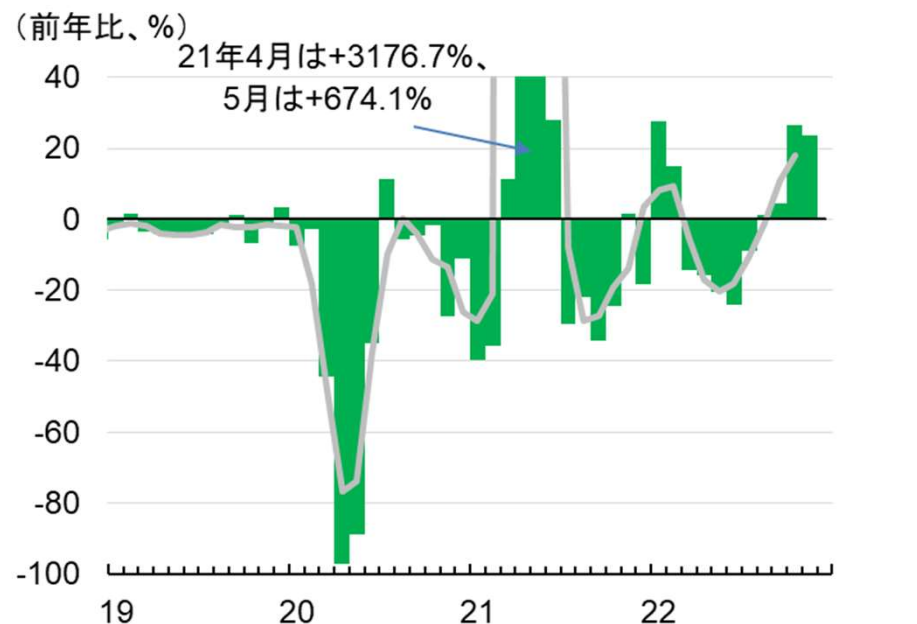
英国の2022年11月の小売数量(除く石油)は前月比▲0.3%と再び減少し、均した動きも下向き。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+23.5%と10月(同+26.4%)より増勢が鈍化。均した動きはプラスが定着したが、登録台数の水準(14.3万台)は依然として低い。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)

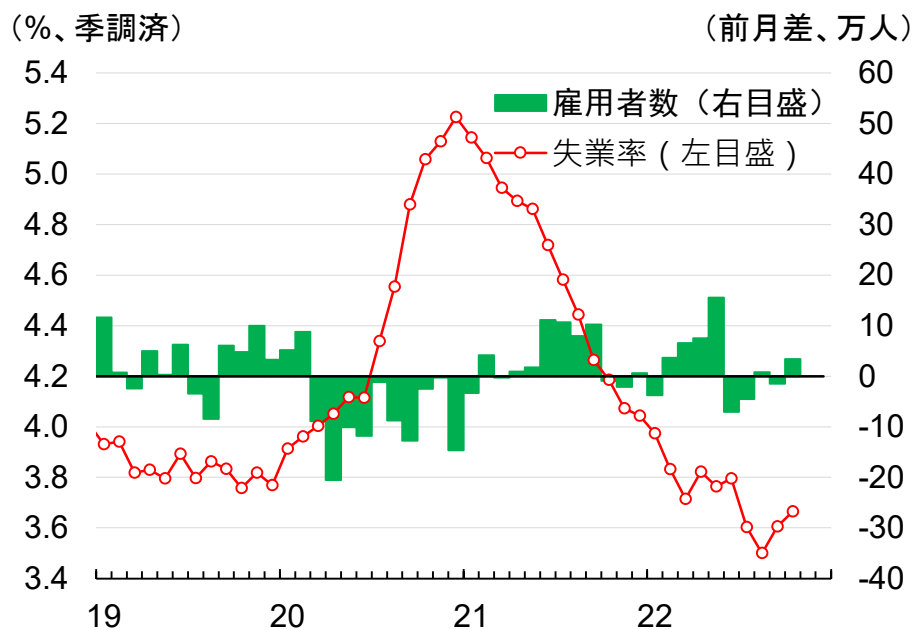


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

英国の10月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.7%と2ヶ月連続で上昇、雇用者数も前月比3.4万人増と再び増加するなど、雇用は改善が足踏み。均した賃金の動きは名目ベースだと前年比6%前後のプラス幅が定着も、消費者物価で実質化した実質ベースだと同▲4%近くの減少幅が続く。

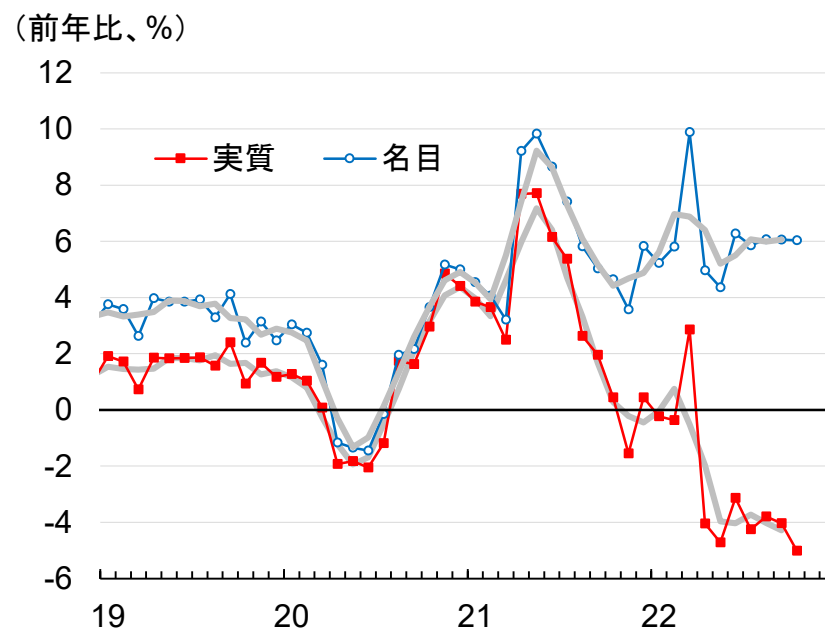
雇用統計



(注)3ヶ月間の平均値
(出所)ONS

(年、月)

平均賃金(週給)



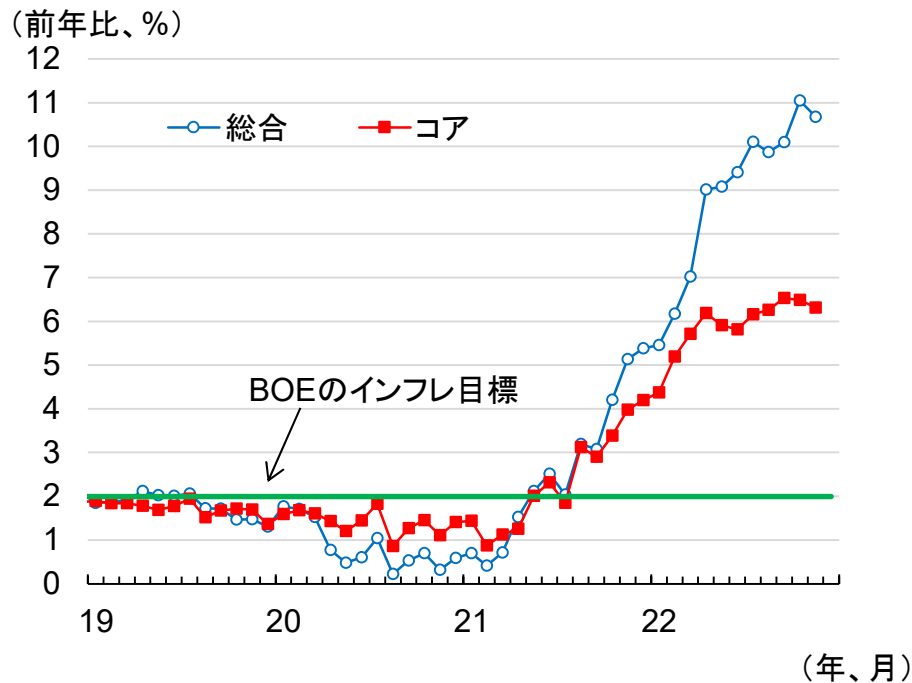
(注)灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

英国景気概況⑤ 物価は高インフレが続く

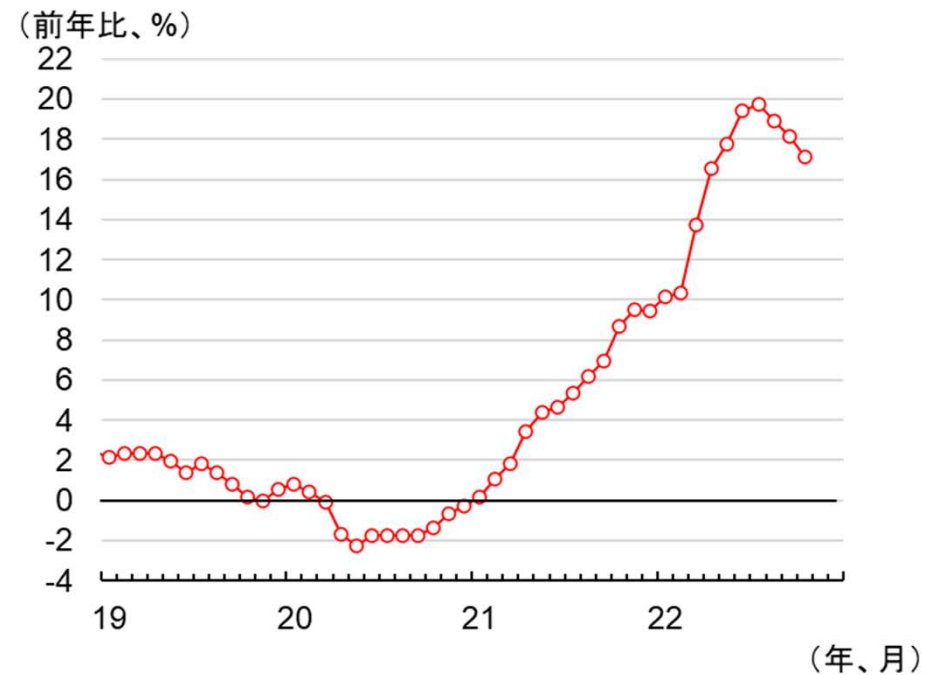
英国の11月の消費者物価は総合ベースで前年比+10.7%と前月(同+11.1%)から上昇率が低下も、高インフレが続く。とはいえ、10月の生産者物価は同+17.1%と3ヶ月連続で伸び率が低下したことから、インフレのピークは近いと考えられる。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

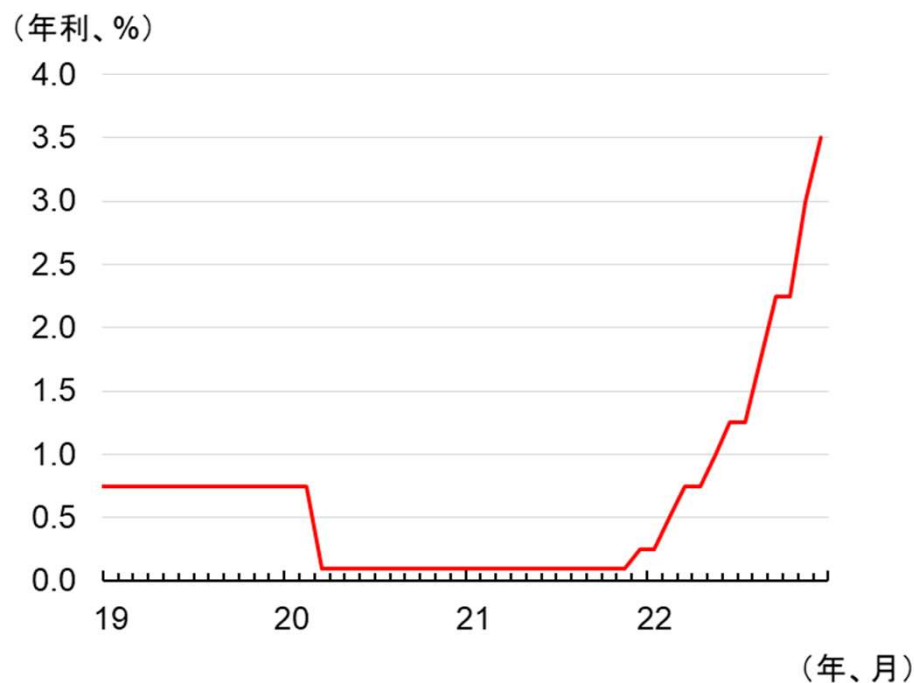


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは12月委員会で追加利上げ

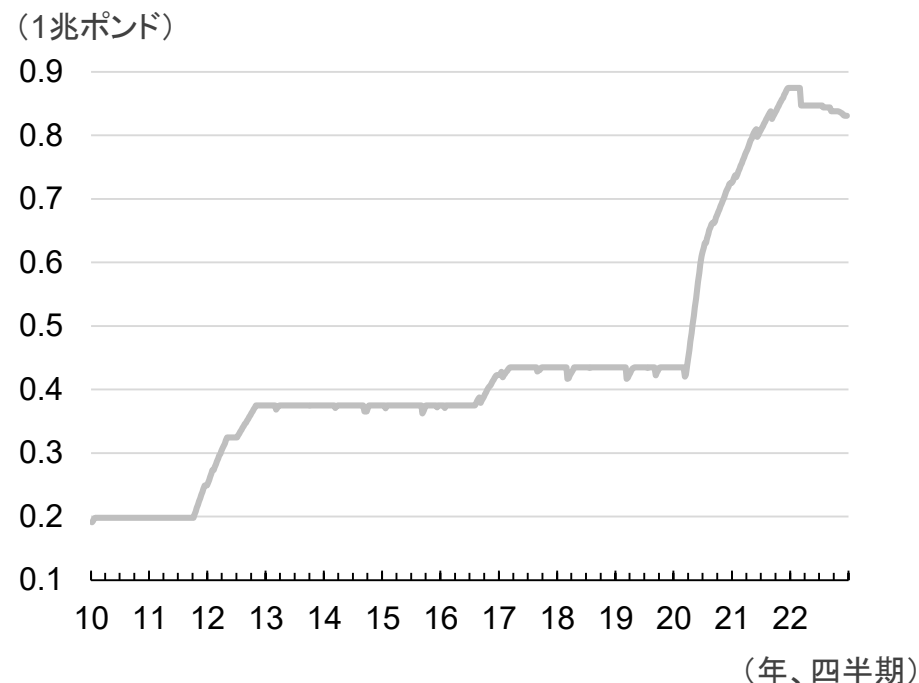
イングランド銀行(BOE)は2022年12月15日に開催した金融政策委員会(MPC)で、政策金利(バンクレート)を0.5%引き上げ、年3.5%とした。BOEは11月1日から保有国債の市中売却を開始しており、国債の保有高は徐々に減少している。年明け最初の委員会は2月2日に予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高



(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

2022年12月の英国の長期金利は上昇した。米国の金利上昇に加えて、BOEによる追加利上げが英国の金利を押し上げた。他方、12月の英国の株価は下落した。景気減速懸念や金利の上昇が株価を下押しした。



(出所)BOE



(出所)BOE

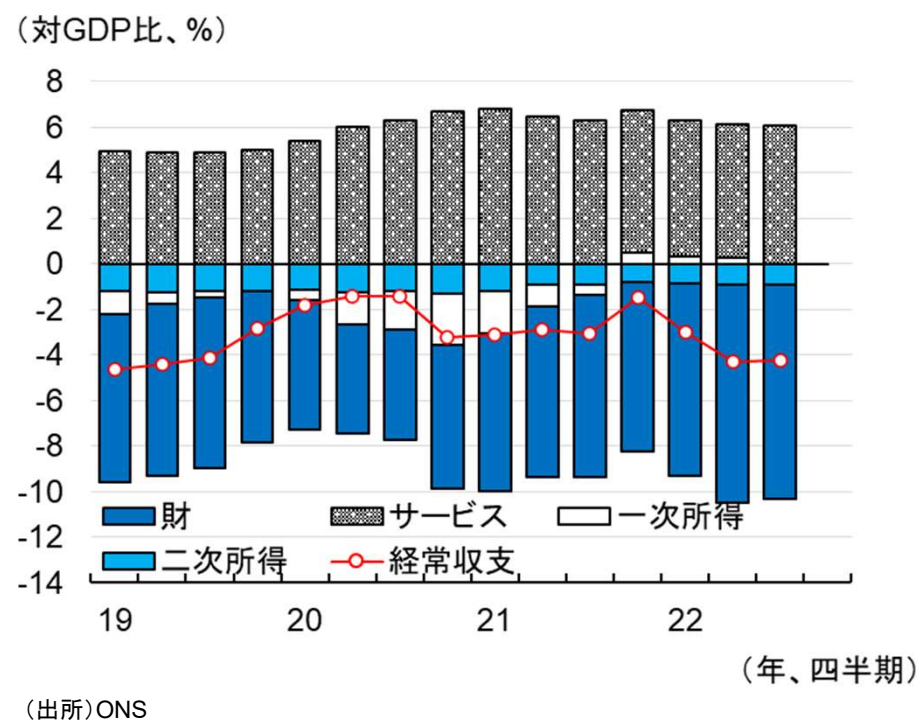
英国景気概況⑧ ポンドは対ドル、対円で下落

2022年12月のポンド相場は対ドル、対円で下落。対ドルでは、スナク首相の就任に伴うポンド買いの動きが一服したことから、ポンド安が進んだ。対円では、日銀による予想外の金融政策の修正を受けてポンド安が進んだ。国際収支を確認すると、経常収支の赤字幅の拡大は一服したが、実需面からのポンド買い圧力は弱いままである。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください